



【生活文化】

今回の特集を立案するために話し合っていた時、メンバーから「漁師さんでみんな泳げるんだよね？」という素朴な疑問が出ました。「そりやそうでしょう？」でもテレビで『泳げないけど漁師になった人』のことを取り上げていたよ？」「じゃあ、聞いてみようよ！」千葉県房総半島南部を巡り、海辺で生きてきた人たちに「泳ぐこと」についてお聞きしました。

漁師さんはみんな泳げるの？

南房総の
人びとに聞いた、
海辺の暮らし

川の水は重くて
泳ぎづらい
「海の子」と「山の子」の違い

昼 ときに地元の人が店前にいたので「絶対にいい店だ」と訪ねました。地の魚を用いた料理を提供する「京や」。アジフライ定食は絶品です。館山市に店を開いて61年目。女将さんは素潜りの名手でした。

出 身は白浜町（現・南房総市）です。家から海までは歩いて5分。小学校に入る前にはもう海で泳いでいました。中学生になっても友だちと二人で海に潜って貝を採っていましたね。今はダメだけど、その頃は家が権利をもっていたら子どもも魚介類を採れたんです。

小学校にプールはありませんでした。水温28℃くらいになると海で水泳の授業です。泳ぎを教わるというよりは遊び。勉強よりずっと楽しかったです。おもしろかったのは水泳大会。先生たちがスイカやトマト、ウリなんかを海に投げ込んで、それを取りだす子どもたちが取



野口 博子さん
飲食店経営
（館山市）

り合うんです。家に持って帰れるのもう取り合いですよ。海のそばに住んでいる子の方がたくさん取っていました。

クラスの半分は海そばの子で、あと半分は山の方に住む子でした。7月になると海の子はテングサを、山の子はフキをそれぞれ学校に持ってきては先生が換金して学校用の置き傘を買って、みんなそれを使っていたんです。

山の子はあんまり泳げなかったですね。私の義理の弟はすぐそばの富浦出身ですが、山の方に住んでいたのだから海に行っても膝下くらいの深さまでしか入るません。やっぱり海が怖いんですね。

山の子は川で遊んでいましたが、逆に私は川が苦手。泳いでも水が重くて進まなくて泳ぎづらかったです。それはプールも一緒。だから泳ぐならやっぱり海がいいです。

海は体が浮きやすいから、潜

って貝を採って疲れたら仰向けになってグラーッと浮きました。どうやって浮くのかって？小さい頃から泳いだから遊んでいるうちに自然とできるようになったね。

ただし、海は怖いこともあるので潜るときは必ず二人で行きました。それでもやっぱり海はいいですよ。この前、うちの店で小学校の同窓会を開きました。みんな長生き！特に女性は元気です。潮風が体にいいんでしょうね。

館山市にある洲崎灯台



ちやんとは泳げないけれど 溺れはしない

70歳から始めたプール通い



鋸 南町の勝山漁港で一人の男性
に出会います。息子さんたちが
操縦する遊漁船の帰りを待っている
ころでした。「漁師さんはみんな泳げ
るのですか？」と尋ねると、興味深い
答えが返ってきたのです。

こ 鋸南町の漁師の家に生
まれました。私も漁師で
したが、年々魚が少なくなるな
ど将来の水産資源が心配になっ
たこともあって遊漁船に切り替
えました。今は二人の子どもが
跡を継いでいます。

漁師はみんな泳げるのか泳げ
ないのか……。難しい問いです
ね。ちやんとは泳げませんけれ
ど、溺れない程度には泳げます
海に飛び込んで岩場まで行った
りちよつと潜ってサザエを採る
くらいはみんなできる。そうい
う感じです。



とも い 艦居 進さん(89歳)元 漁師
「初代新清丸」船長(鋸南町)

でも平泳ぎはすぐにできるよ
うになりました。水に頭を浸け
ると体が浮いて、頭を水面に上
げると身体が沈みますよね。そ
れを交互にやった。見様見真似
でも25mはなんと
か泳げました。

平泳ぎだと腰が
痛くなったのでク
ロールに切り替え
ました。独学です。
水に顔を浸けたま
まクロールして、時々呼吸もし
ての繰り返し。週に2回プール
に通って25mを7〜8本泳ぎ、
あとは水中ウォーキングです。
ずっと続けたかったんですが、
数年前に腸を手術してからお腹
の調子が悪くて、医者相談す
ると、温水でも体温よりは低い
から腸を冷やしてしまうかもし
れない、と言われたので通うの
をやめました。



海で泳ぐなら平泳ぎ一択

— クロールは息継ぎが難しい



漁 師から釣り船経営に転じた父、鱸居進さんの跡を継いで、弟と二人で遊漁船「新盛丸」を切り盛りしている正悟さん。学校にプールがあるのは当たり前となつた時代に育つた50代の海への思いとは？

漁

師から遊漁船経営に転じた父（鱸居進さん）の跡を継ぎ、弟と二人で船を2艘操つて釣り人たちを日々案内しています。

海で泳ぎはじめたのは小学生になるかならないかくらいの頃ですね。まるで犬かきのような平泳ぎで。教わったわけではなく、人が泳いでいるのを見て自然にです。

同級生で泳げない子はいなかったはずですよ。私が通っていた小学校にはプールがありました。平泳ぎはできたので、水泳の授業でクロールを教わりました。

泳ぎを習って変わったことですか？

犬かきのような平泳ぎが速くなりましたね。クロールもできますが、海は波があるので息継ぎが難しい。だから海ではずっと平泳ぎ。海なら体は浮くけれど、プールは体が浮かないんですよね。海が風いでいたらそれこそ何時間でも体を浮かべられます。

この海も子どもの頃とはだいぶ変わりました。こんな大きな漁港はなくて、岩場と砂浜が組み合わさった遊びやすい海だったんですよ。先輩や後輩と岩場まで競争したりしていました。

私にとって海の水とは、「スパゲッティを茹でる時は海の濃さ」。海水の濃さと同じくらいになるように、塩を入れるんです。料理は手づくりじゃないと食べてくれない娘も「塩加減は海の濃さ！」とよく言っています。



ともい
鱸居 正悟さん (57歳)
遊漁船「新盛丸」経営 (鋸南町)

新盛丸
〒299-2117 千葉県安房郡鋸南町勝山273-1
<https://sinseimaru.com/>



(上) 館山市周辺の海で採れるテングサの干し場。取材時はちょうど採取と乾燥のシーズンだった
(左) 洲崎灯台そばの商店で提供する、地元のテングサでつくった「ところてん」。房総南部ならではの一品

海では「速さ」より「潜り」が大事

ずっと海で遊んでいた少年時代



赤沼 竜義さん(22歳)
遊漁船「赤沼丸」船長(館山市)

最近は「海離れ」「海水浴離れ」が進んでいると言われますが、海辺で暮らす若者もそうなのでしょうか？ 館山市洲崎^{すのさき}の浦漁港でルアー釣りをメインとする遊漁船「赤沼丸」を操る若き船長にお聞きしました。

もともと漁師でしたが、船の権利を譲っていただいてから父と兄と3人で遊漁船を動かしています。

生まれた家はすぐそばなので、泳いだのはプールより海が先。シーグラスを集めたり、釣りをしたり、水中メガネをつけて魚を釣^{もち}で突いたり貝を採ったりしていました。学校にはプールがありませんでしたが、楽しいのは断然海です。

どうやら無鉄砲な子どもだったようで、親の目を盗んでは勝手に海に入って何回も溺れて、そのたびに父に助けられていたそうで、今でもよくからかわれます。

泳ぎは自己流です。浮き輪につかまって兄に付いていったので、自然とバタ足とか覚えて泳げるようになったんじゃないかな。兄は「ここから先は来るなよ、足がつかないからな」と教えてくれました。学校で海に泳ぎに行くことはなくて、遠泳もなかったです。まったく泳げない友だちもいませんね。

漁師は速く泳げるよりも、潜れるかどうかの方が重要です。プールでいくらクロールが速くても、深く潜れるかどうかはまったく別の話です。潜るには、息のつき方も耳抜きも必要で、しかも泳ぎ方はまったく違うんです。

潜るとき、息は少しだけ溜め、頭を下げてスツと海に入っていく。足は力まずヒラヒラと動かして潜っていくんです。足をバタバタさせて潜ろうとする人がいますが、そうすると息が続かなくて海底に長く留まれません。漁師は年々少なくなっています。

ですので、若い人たちに海に来てもらって海の仕事に興味をもってもらいたいのですが、ごみを置いて帰ってしまう人とか遊泳禁止の場所でも泳ぐ人とかいるんです。遊泳禁止の場所にはないから理由があるものですが、海はたとえ天気がよくても急に潮が速く動くときがあったり、台風が遠く離れていてもうねりが出ます。だから泳いでもよい場所、気をつけながら海で遊んでほしいですね。



赤沼丸
〒294-0316 千葉県館山市洲崎88
<https://akanuma-maru.com/>

内陸育ちとは異なる「泳ぐ」の定義

房総半島南部の海で育った、年代や性別が異なる4人にお話を聞くと、海が近くにない場所^{すなわち内陸}で育った場合とは「泳ぐ」の定義が違うことを感じました。鱸居進さんが言っていた「ちゃんとは泳げないけれど、

溺れない程度には泳げる」が真実なのでしょう。ちゃんといふのは近代泳法を指しますが、物心つくかつかないかのうちに海で泳ぎはじめると、見様見真似でなんとなく泳げるようになっていくそうです。

海の方が体は浮いて泳ぎやすいという声も多かったです。川やプール、つまり淡水で泳ぎにくいのは、野口さんの「川の水は重たい」という表現によく表れています。

海で仕事をする際、速く泳

げるかどうかよりも「深く潜れるかどうか」が重要という赤沼さんの指摘も新鮮でした。少しだけ潜るコツも教えていただいたのでこの夏に試してみたいものです。

(2024年5月13日、16日取材)